

にいみなんきち

新美南吉 『かにのしょうばい』より

『かにのしょうばい(二)』をよみながら、

は・わ・が・を・お・へ・えのあうじを()のなか
にかきましよう。

かに
蟹は、そこで、山()
やま
（やっていきました。山にはたぬき）
やま
（ひ
るねをしていました。

「もしもし、たぬきさん。」

たぬきはめ()さまして、

「なんだ。」

といました。

「どこやですがごようはありませんか。」

たぬきは、いたずら()すきなけものですから、よくないこと

()
かんが
（考えました。

「よろしい、かっでもらおう。ところで、ひとつやくそくしてくれなき
やいけない。というのは、わたしのあとで、わたしのお父さんとつの毛けも
かっでもらいたいのさ。」

「いよいよおやすみです。」

そこで、蟹かにのうで）（ふるうときがきました。

ちよつきん、ちよつきん、ちよつきん。

ところが、蟹かにというものは、あまり大きなものではありません。蟹かにとくらべたら、たぬき）（とんでもなく大きなものであります。

その上たぬきうねというものは、からだじゅうが毛けむくじやらであります。ですから仕事しごとはなかなかはかどりません。蟹かには口くちから泡あわ）（

ふいていっしょうけんめいはさみ）（つかいました。そして三日みっかかかって、やっとのこと仕事しごとは）（わりました。

こたえ

蟹かには、そこで、山やま（へ）（やっ）ていきました。山やまにはたぬき（が）（ひるね）をしていました。

「もしもし、たぬきさん。」

たぬきはめ（を）（ち）まして、

「なんだ。」

といました。

「どこやですが、ごようはありませんか。」

たぬきは、いたずら（が）（す）きなけものですから、よくないこと

（を）（かん）が（考）えました。

「よろしい、かってもらおう。ところで、ひとつやくそくしてくれなき

やいけない。というのは、わたしのあとで、わたしのお父とうさんの毛けも

かってもらいたいのさ。」

「はい、おやすいことです。」

そこで、蟹かにのうで（を）（ひ）るうときがきました。

ちよつきん、ちよつきん、ちよつきん。

ところが、蟹かにというものは、あまり大きなものではありません。蟹かにとくらべたら、たぬき（は）とんでもなく大きなものであります。

その上たぬきうねというものは、からだじゅうが毛けむくじやらであります。

ですから仕事しごとはなかなかはかどりません。蟹かには口くちから泡あわ（を）

ふいていっしょうけんめいはきみ（を）つかいました。そして三日みっかか

かって、やっとのこと仕事しごとは（お）わりました。